

インターネット多次元中継は大成功

森 友和

「8月11日の日食は何処で観測する予定ですか?」「先日の日食は何処で観たのですか?」日食仲間だけでなく、私が日食観測に深入りしていることは私の知人なら誰でも知っていて、この夏は多くの方からこのような挨拶と質問を受けた。だが、今年の日食は東京でインターネット中継の準備と科学技術館で中継画面を利用したイベントの手伝いという「日食観測」となった。今世紀最後の皆既日食の日は、インターネット中継のため日本で慌ただしく準備等をしていて、その忙しさは観測地で日食を迎える以上であった。

■インターネット中継の計画

8月11日に起こる皆既日食を、LIVE!ECLIPSE実行委員会（実行委員長：みさと天文台尾久土台長）は4度目のインターネット中継にチャレンジした。私たちは計画を、7月19日五島プラネタリウムでプレス発表した。ホームページのアドレスは「<http://www.solar-eclipse.org/>」。動画表示用の専用ソフトRealPlayer G2または RealPlayer 5.0を用いて中継画像を見ることが出来るようにした。ホームページは日・英の二種類を用意し、日本と世界の人々に日食を観てもらうように準備を進めた。そのためか、8月になってから私たちの計画の記事が、ワシントンポストやニューヨークタイムズにも掲載された。

今回は、イギリス・Helston(嵩本、西島)、フランス・Strasbourg(市川)、ドイツ・Stuttgart(尾久土、保述、板垣)、ドイツ・Munchen(曾我)、オーストリア・Graz(豊増)、ハンガリーBalaton(高橋夫妻、山口)、ルーマニア・Govora(田中、西郷、川井)、トルコ・Erazig(高橋、杉中、永井、松本)、イラン・Esfahan(和田)からの多次元中継を、日本時間で17時頃から21時過ぎまで行なった。世界9カ国から同時に送られてきた画像は、東大の情報基盤センターの中に設置したネットワーク・オペレーション・センター(中山)で画像収集し、9カ所からの画像を一度に見せるために、松下電気産業の技術を使って画面を9分割し、同一画面で同時に各地の画像が見えるようにして世界に配信した。なお、中継で送られてきた画像編集などの作業は、同センターに横付けされた日本大学総合学術情報センターの中継車(相川)の中で行われた。

■日食の画像は6ヶ所から送られてきた

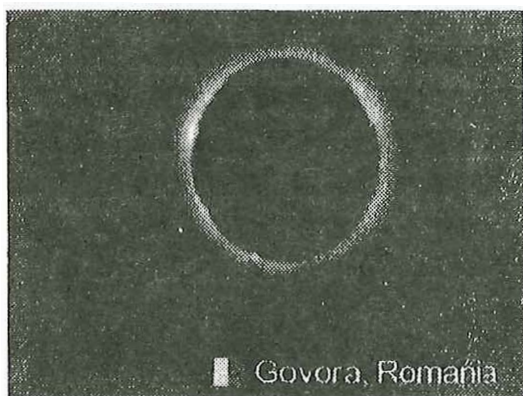
残念ながら、日食当時はヨーロッパのイギリス・フランス・ドイツ等に低気圧の影響で雲がかかり、皆既日食のコロナを観測することは出来なかった。しかし、他の地点では、雲の影響を受けた場所もあったが、部分食やプロミネンス、ダイヤモンドリングそしてコロナが観測でき、イラン以外はトラブルもなく、多次元中継は大成功を納めた。特に、各地の観測機材を統一し、太陽画像の大きさや方向も同一にしたため、各地の日食が容易く比較できた。各地の天候の違いが日食の画面に表れ、プロミネンスがよく見えた観測地、コロナがはっきり見えた場所など、日食の見え方の違いが面白く画面上に表れた。

■中継イベントも大成功、世界からも多数のアクセス

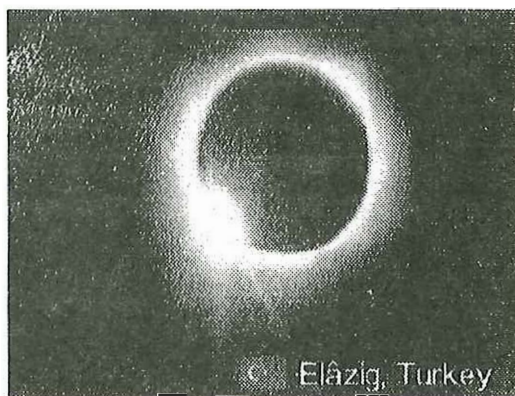
このインターネット中継を利用したイベントを科学技術館（半田）、五島プラネタリウム（戎崎）、和歌山の南紀熊野体験博（矢治）、みさと天文台（矢動丸・小澤）で行なった。また科学技術館には130人が集まり、五島プラネタリウムには会館始まって以来の満員という好評であった。

ホームページには世界からも多数のアクセスがあり、最終集計では1400万ヒット / 260万 page view 以上、となった。

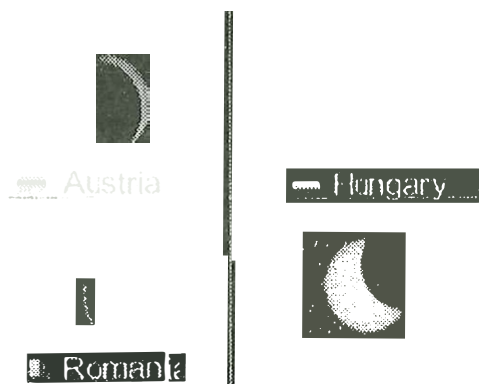
【注】 カッコ内の名前は担当者名、敬称は省略しました



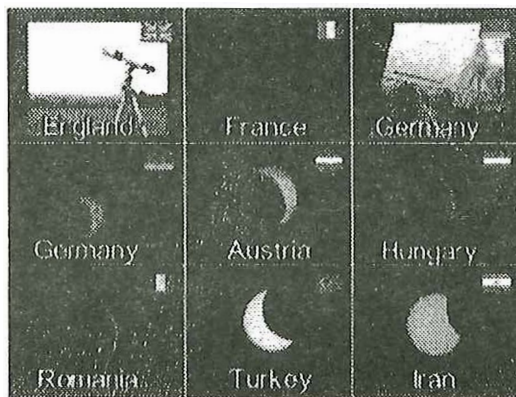
コロナ



ダイヤモンドリング



4分割中継画面



9分割中継画面